

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）9月26日（火）掲載

ラウンド後サロンで憩う

日本を愛した建築家 レーモンドが設計



に登録されている。この天井の雰囲気。ここから眺めるコース。それに、この暖炉が好きなんですよ」日本人のために作られた国内最古のゴルフ場「東京ゴルフ倶楽部」（狭山市）。史料室部長を務める水野勝之さん（79）はクラブハウスが、国の有形文化財

50周年で建設

1963年、「設立50周年」の記念事業で建設された。設計はチェコ出身の建築家、アントニン・レーモンド。フランク・ロイド・ライトとともに、帝国ホテルの設計のために来日した建築家だ。

帝国ホテルは、ちょうど100年前に落成した。1923年9月1日。記念式典当日、東京を未曾有の巨大地震が襲った。

関東大震災である。震災に遭遇したレーモンドは日本にとどまり、再び立ち上がることを日本の復興を助けた。作品である聖路加国際病院（現・旧

クラブハウスのサロンでくつろぐ水野勝之さん。建物は国の文化財に指定されている。狭山市の東京ゴルフ倶楽部



館や聖心女子学院の聖堂のある校舎（現・初等科校舎）などが現存している。

しかし、レーモンドは戦争の激化により渡った米国内で一転、米軍に協力する。柱、障子、畳。日本の家は、木と紙と草でできている。瓦屋根を突き破って屋内に火を放つのは、簡単に燃える。日本家屋の知識をもとに焼夷弾の開発に手を貸した。のちにレーモンドは、日本への愛と戦争の早期終結に揺れる葛藤を自伝に記している。

戦後に再来日したレーモンドは、日本の復興に尽くした。88年間の生涯の約半分を日本で生き、日本を愛したレーモンド。日本語はペラペラで、「私は舶来日

本大です」が口癖だったという。県内では63年に落成した立教学院の聖パウロ礼拝堂（新座市）がレーモンド作品だ。東京ゴルフ倶楽部のクラブハウスも同年に落成した。



⑤レーモンド作品である立教・新座キャンパスの聖パウロ礼拝堂。立教大学提供

基本的に東京ゴルフ倶楽部ではフリーできない。その会員になるには高額の入会金が必要だ。しかも、資産として売渡できる一般的なゴルフ会員権とは異なり、同倶楽部の会員は一代限りで、譲渡も相続もできない。新規募集も少なく、50代で会員となった水野さん一度も見送られている。

常陸宮さま（夫妻と三笠宮妃百合子さまを名譽会員に迎えている東京ゴルフ倶楽部の会員には、旧皇族や旧華族が少なくない。水野さんは、徳川家康の生母・於大の方の実家である水野宗家の20代当主だ。

ただ、新規会員に渡されるハンフレットの冒頭に、「不許冠職入山門」（冠職山門に入るを許さず）血筋や社会的地位を倶楽部内に持ち込むことは固く禁じられている。水野さんが旧華族の出であることも、本人から聞いた話ではない。

会員「一代限り」

会員と一緒でなければ、

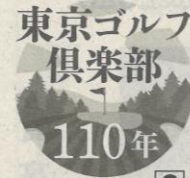


その格式から、「朝霞市」の市名の元にもなった国内随一の名門。ゴルフをたしなむ者なら、生涯に一度はプレーしたいと憧れる東京ゴルフ倶楽部は今年、設立110年を迎える。日本人のために作られた国内初のゴルフ場の物語をつづりたい。（抜井規泰）

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）10月3日（火）掲載



2

「去年、ようやく勝つことができた」と、埼玉県狭山市の名門・東京ゴルフ倶楽部。クラブハウスのサロン奥の史料室に展示された純銀製のカップを見つめ、史料室委員の黒

1922年のちの昭和天皇が親善試合



戦後に制作された東京ゴルフ倶楽部の「撰政杯」＝狭山市の東京ゴルフ倶楽部

たのちの昭和天皇から下賜されたカップに由来する。このカップを争う「撰政杯」は、倶楽部の最も栄誉ある競技とされ、優勝者は台座に名前が刻される。ゴルフをやらない者には、真夏だろうが真冬だろうが雨だろうが、外に出て小さなボールを追い回し、18ホールで1万5千歩も歩き回る姿は滑稽に映るかもしれない。だが、その魅力を知ると、これほど面白いゲームはない。

井上準之助の夢

日銀総裁や大蔵大臣を歴任し、1932（昭和7）年の「血盟団事件」で暗殺された政治家・井上準之助は、アメリカ赴任中にその魅力のとりこになった。

明治維新後、外国人が自分たちのために造成したゴルフ場が、兵庫と横浜にあった。しかし、日本人が気軽にプレーできる場ではなかった。井上は帰国後、日本人の

ためのゴルフ場を夢見た。こうして生まれたのが東京ゴルフ倶楽部だ。三菱財閥創設者である岩崎弥太郎のおいの岩崎小弥太や、三井家10代当主の三井八郎右衛門らが出資に応じ、110年前の1913（大正2）年12月、東京・駒沢に東京ゴルフ倶楽部は誕生した。

英皇太子と対戦

誕生から9年後。22（大正11）年4月19日、歴史に残る「試合」が行われた。のちの昭和天皇である撰政宮と、英国のエドワード皇太子とのマッチプレーだ。皇太子はのちのエドワード8世で、故エリザベス女王の伯父。「王冠をかけた恋」で退位した英国王で知られている。

この親善試合を機に制作されたのが、冒頭に記した東京ゴルフ倶楽部の「撰政杯」だ。ただ、このカップには一つの謎がある。（按井規泰）

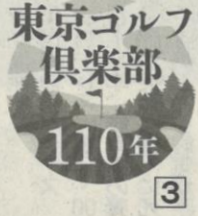
東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）10月17日（火）掲載

菊花紋 なぜ許された？

大相撲の賜杯は問題視 摂政杯の謎



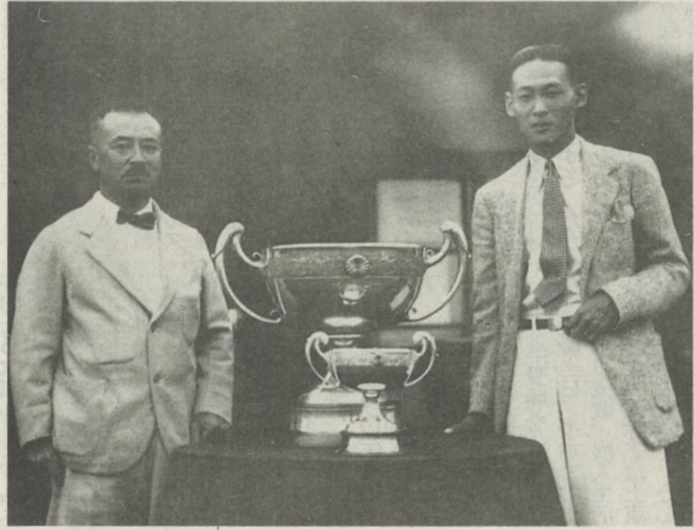
③

「賜杯」と聞いて、多くの日本人が思い浮かべるのは、大相撲の優勝カップではないだろうか。1度だけ持ち上げたことがあるのだが、29キの純銀製のカップは驚くほど重い。

警告受け装飾に

1925（大正14）年4月29日。摂政宮（のちの昭和天皇）の誕生日に東宮御所で相撲大会が催された。その際、摂政宮から1千円の下賜金があったという。このお金に、これまで蓄え

ていた皇室からの報奨金などを合わせて、当時の相撲協会が賜杯を制作した。費用は3千円という記録が残っている。実は最初に、現在のもの



とは異なるカップが作られた。しかし、かたどられた菊の紋章が問題となり、宮内省、内務省、警視庁が警告。優勝杯として使えなくなり、錆びてしまった。現在の賜杯はその後制作したもので、菊花紋ではなく菊を描いた金の装飾がはめ込まれている。

国民体育大会（国体）の天皇杯など、数多くの「賜杯」や「天皇杯」があるが、宮内庁によると、実際に皇室のお金を元に作られたのは大相撲の賜杯だけだという。ちなみに、大正時代は15年までしかないのに、賜杯の裏側には「大正十六年四月二十九日」という存在しない年月日が刻まれているのだが、この話の続きは朝日新聞デジタルの連載「角界余話」をご覧ください

東京ゴルフ倶楽部提供

ただきたい。

制限の形跡なし

東京ゴルフ倶楽部の賜杯「摂政杯」に話を戻そう。戦前の写真を見ると、カップに菊花紋がかたどられている。当時は菊花紋の使用が制限されていた。だから大相撲の賜杯は問題視されたのだが、東京ゴルフ倶楽部の賜杯が問題となった形跡はない。大相撲のように協会が制作したのではなく、実際に昭和天皇や宮内省から贈られたものなのだろうか……。

残念ながら制作の記録がない上に、民間の金属を国が取り上げる戦時中の「金属供出」で消えてしまった。現在の賜杯は戦後のレプリカだ。しかし、倶楽部の史料室部長を務める水野勝之さん(79)は、「戦中に錆びさせられることなくどこかに存在しているのではないかとみている。その訳は……。」

（抜井規泰）

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）10月24日（火）掲載

戦禍逃れたオリジナル

コンノート殿下杯



4

東京ゴルフ倶楽部には、101年前の摂政宮（のちの昭和天皇）とエドワード

皇太子（のちの英国王・エドワード8世）の親善試合にさかのぼる「撰政杯」に「プリンス・オブ・ウェールズ杯」など、16のカップがある。だが、その歴史が戦前にさかのぼるカップは、いずれもオリジナルではない。戦中の「金属類回収令」に従い、1944年11月から

順次、供出してしまった。現存するのは、すべて戦後に制作されたものだ。たった一つを除いて……。

半世紀ぶり発見

「コンノート殿下杯」カップに刻まれた英文によると、18（大正7）年7月に、英国のピクトリア女王の第3王子・コンノート公から倶楽部に贈られた。日英同盟で結ばれていた

西国。コンノート公は明治天皇に対する、イングラドの最高勲章「ガーター勲章」の奉呈や、明治天皇の大喪の礼など計4度訪日している。18年には大正天皇に元帥杖を授与しており、その折に倶楽部にカップを贈ったようだ。

倶楽部では「コンノート殿下杯」を開催。38（昭和13）年11月の競技では、のちにサンフランシスコ講和会議（51年）で日本全権団の顧問を務めた白洲次郎が優勝している。

「コンノート殿下杯」も戦前に供出してしまったの



戦中の金属供出をへて東京ゴルフ倶楽部に戻ったコンノート殿下杯＝狭山市の東京ゴルフ倶楽部



イギリス訪問の公式歓迎宴での、のちの昭和天皇（中央）。前列右端がコンノート公＝1921年5月11日、ロンドン・ギルドホール、ALFIERI PICTURE

だが、実は、平成に入って再発見されたオリジナルが現存している。

92年春。米国人コレクターから日本の古物商を通じて、東京ゴルフ倶楽部に買い戻しの要請があったという。倶楽部では理事会を開き、買い戻しを決議。約半世紀ぶりに戻ってきた。史料室部会長の水野勝之さん（79）は、こう推測する。

撰政杯もきつと

戦中に供出された銀器は国庫に入ったものの、錆つがざれることなく終戦を迎えた品もあった。戦後、政府やGHQを通じて売却されたカップが、半世紀後に世に出てきたのではないかとしたら……。

「コンノート殿下杯が残ったのに、菊花紋の入ったカップを戦中の日本政府が錆つぶすことなど考えられません。撰政杯のオリジナルは、この世のどこかに存在しているのではないでしようか」（抜井規泰）

駒沢コースの「名勝負」

ゴルフ好きだった昭和天皇



1913（大正2）年に設立された東京ゴルフ倶楽部は当初、東京・駒沢にコースがあった。9年後の22年4月19日、摂政宮（のちの昭和天皇）と英皇太子がマッチプレーを楽しんだのも、駒沢コースだ。のちの英国王エドワード8世で、「王冠をかけた恋」で退位したウィンザー公である。マッチプレーは、1対1で1ホールごとに勝敗を争う。いまは、合計何打で回ったかを競うストロークプレーが主流だが、ゴルフの起源はマッチプレーだ。

「日本のゴルフフルールの父」と呼ばれたゴルフ通だ。

日本不利の言説

ゴルフ好きだった昭和天皇とエドワード8世。昭和天皇は、戦前、皇居に9ホールのコースを設けるほどだった。

9ホール勝負は1アツプ（1点差）で英国が勝利。翌日の東京朝日新聞は、試合は「スリーボール・フォアサム」だったと記している。英国側は、皇太子とハ



英皇太子とのプレーを楽しむ、のちの昭和天皇＝1922年4月19日、東京・駒沢の東京ゴルフ倶楽部

ルゼー中将がそれぞれボールを打ち、状態が良い方を採用してプレーを続ける。一方、日本は昭和天皇と大谷氏が交互に打ったというのだ。日本側が不利だ。記事には「プリンスの方はコンディションが好い訳ですのに、摂政宮殿下の御奮闘で非常なクロスゲームとなったのです」との大谷氏の談話がある。この対戦が日本側に不利だったとする言説は、その後あちこちで紹介されているのだが……。

実際は4ボール

倶楽部の史料室部会長の水野勝之さん(79)は、日英の外交史にも刻まれているこの1日を調査。試合を見守った会員の記述やウィンザー公の回顧録などを元に、皇居から駒沢へのルートや車列の順番、試合の詳細を調べ上げた。その結果、実際には「3ボール」ではなく「4ボール」で、4人がそれぞれ球を打って双方のベストボールで戦ったことがわかった。

日本に不利な条件だったのが昭和天皇の活躍もあり1点負けて済んだ。そんな印象を作るための新聞記事だったのだろうか。日中戦争が勃発すると昭和天皇はゴルフをやめ、二度とクラブを握らなかつたという。野山に戻った皇居のゴルフ場はいま、絶滅危惧種を含む約5千種の動植物が生息し、「都心の秘境」と呼ばれている。

〔抜井規泰〕

「御城印」が登場

寄居の鉢形城など

小田原北条氏ゆかりの神奈川県小田原市、東京都八王子市、そして寄居町が、近年人気が高まっている。「御城印」の販売を始めた。戦国時代に北条3兄弟が治めたという縁で、2016年に姉妹都市となった3市町。今年は2代氏綱が「伊勢」に代わり「北条」を名乗るようになって500年にあたることから、「小田原北条氏誕生五百年記念」の御城印をつくることになった。小田原城、八王子城、鉢形城（寄居町）の印を左から並べると山並みがつながるようになっていく。郵送による販売などはしておらず、各市町に行かないと購入できない。

1枚税込み300円。販売場所は小田原城天守閣（12月30日まで）と桑都日本遺産センター（八王子博物館）（同28日まで）、鉢形城歴史館（同27日まで）の3カ所。

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）10月31日（火）掲載

東京ゴルフ倶楽部110年

朝日新聞【埼玉版】

2023年（令和5年）11月7日（火）掲載

跡地は都民のオアシスに

駒沢地価高騰で1932年閉鎖



6

東京ゴルフ倶楽部が、現在の世田谷区駒沢にコースを造成した頃、駒沢の地は野ウサギが跳ね回り、それを獲物にするオオタカが舞う野山だったという。倶楽部を設立した井上準

之助は、のちに日銀総裁や大蔵大臣を歴任した政治家だが、猫の額ほどの土地が巨万の富と化する地価の高騰を予測できなかった。そして、これが倶楽部を苦しめることになる。作家の司馬遼太郎は、東京の地価高騰について「街道をゆく36 本所深川散



駒沢オリンピック公園の歩道に立つ「駒沢ゴルフ場跡」の石碑＝東京都世田谷区

歩、神田界限」（朝日新聞）で、こう記している。「東京のガンともいえるべき土地問題」

倶楽部は、土地を買い上げずに借地のままコースを造成した。駒沢の地価は、年々高騰。会員からの出資金と、その運用益では借地代をまかなえなくなり、移転を余儀なくされた。

五輪の会場にも

駒沢のコースは1932年4月24日に閉鎖された。その跡地は――。

目黒蒲田電鉄（現・東急電鉄）に譲渡され、誰でもプレーできる「パブリックコース」として再スタートする。

その後、アジアで初めての五輪開催が決まる。幻となった「40年東京五輪」である。同年は神武天皇即位から数えた「皇紀2600年」でもあり、国家事業として準備が進められた。駒沢の土地には、10万人超を収容するメイン会場の

建設が計画された。しかし、日中戦争の激化で東京五輪は中止となる。ゴルフ場の跡地は陸軍の軍用地をへて、第2次大戦末期には農地に姿を変えた。

敗戦から14年後。東京は再び、五輪開催都市に選ばれた。64年東京五輪だ。

メイン会場は明治神宮外苑の国立競技場に選ばれた。金メダルを獲得したバレーボール女子の「東洋の魔女」は、駒沢で生まれた。五輪後は、多くのスポーツ施設を備える公園として整備された。いま都民のオアシスとなっている「駒沢オリンピック公園」だ。

小さな石碑だけ

昭和天皇とエドワード8世が親善試合を楽しんだゴルフ場の面影は、どこにもない。公園の北西の路上に、「駒沢ゴルフ場跡」と彫られた、子どもの腰ほどの高さの小さな石碑が立つだけである。（抜井規泰）